

# 福井市中心市街地活性化事業におけるアートとデザインの活用

近藤晶\*・吉野剛\*・芦田浩之\*・谷内眞之助\*

## Utilizing art in Fukui city downtown activation business

Sho Kondo\*, Tsuyoshi Yoshino\*, Hiroyuki Ashida\* and Shinnosuke Taniuti\*

We did the activation business for the Fukui city that declined by the downtown's becoming hollow. This business was an art event that gave the paint to the board and the log. It is an attempt to regain the bustle of Fukui city by the child and the parents enjoy producing and exhibiting it to the downtown.

Keywords: art, design, wood painting art, activation business

### 1. はじめに

福井市は中心市街地の空洞化の進行により寂れが見られる市街地となっており、活性化を目指して近年さまざまなイベントが実施されている。本稿は福井市の中心市街地活性化を図るために、アートを活用したデザインによって市民と中心市街地を啓発し寄与するために実施した事業の報告である。

本事業のねらいは、参加性と界限性に回遊性を構築し、街中の活性化と交流を推進することにある。実施方針は、幼児を含む子供も大人も楽しめる参加型イベントとし、芸術性と環境問題を考慮したアートフェスティバルを企画した。交流の推進については主会場とサブ会場を設定し、主会場を中央の栄町商店街の空き店舗活用、サブ会場を大手、順化、日之出、手寄に置いた計画をたてる。

幼稚園児や小学生から保護者も含めて参加できるアートワークショップを各地で実施し、板人形と丸太ペインティング作品の制作を試みた。ワークショップの参加者にはアルミ製のマメ独楽をプレゼントし、これを提示することで最終日のメインイベントの期間に商店街で何らかのサービスが受けられる仕組みを提案している。

### 2. 人員と役割

人員は表1のとおりであるが、企画・計画から段取り、折衝を福井工業大学デザイン学科4名が担当。ディレクター役を主に谷内が担当し、サポートとアートディレクター役を芦田が受け持ち、コーディネート吉野、広報を近藤が主に受

表1. 協力人員

福井工業大学	谷内眞之助、芦田浩之、吉野剛、近藤晶、 土木環境工学科4年生有志、デザイン学科 1・2年生有志
福井工業大学付属 福井高等学校	竹内哲宏教諭、横谷知春教諭、及び高校生 有志

\* デザイン学科

け持った。ワークショップの実施は、大学の上記4名の教員に学生と付属高校の教諭と高校生を含め、スケジュールを調整しつつ実施に至る。

### 3. 実施内容

#### 3-1. 期間

本事業の実施期間は平成22年7月から10月に及ぶ。この間、7月から8月を福井市との打ち合わせや実施場所の調査、検討などの期間、9月から10月をワークショップ実施のための期間と設定した。

#### 3-2. 内容

本事業はアートやデザインの要素を全面に出しつつ、世代を超えた交流や参加を目指す考えから、タイトルは「だれでもアート・どこでもアート」とした。実施内容の一つはワークショップであり、9～10月の休日を活用して和田地区の祭り、秋の収穫祭、各地の公民館で子供と市民参加による作品づくりを実施してきた。二つ目はイベントであり、アート性・デザイン性を重視して西武百貨店公開広場で10月30日と31日の土日に開催した。前者のワークショップは、板人形と丸太アートの制作によって、まさにだれもが楽しめる参加型のものである。

#### 3-3. ワークショップ

板人形と丸太アートの制作を中心市街地の各地の公民館で実施した。実施日時、場所、参加人数は表2の通りである。参加者が多数の場合は、3～4人のチームや家族チームで一つの作品を制作し、小人数の場合は一人ないし、二人に学生や教員がサポートに入り制作を行った。

板人形のベースとなるベニヤ板は、福井林産組合の協力を得て材木代の原価と大工の人件費のみで制作。丸太アートの入手手配は、福井県総合グリーンセンター

の協力を得て、1本当たり1000円という安値で手配してもらい県産材の杉丸太を入手している。

絵の具や画材は、ホルベイン工業株式会社が協賛企業として協力を得、提供していただいた。

#### 3-4. 板人形制作手順

ワークショップで制作した板人形の制作手順は、基本形として直線を使って人のかたちに切り抜いたベニヤ板に自由に色を塗るという単純なものである。これに参加者の要望によって様々な

表2. ワークショップ日程表

実施日時	実施場所	参加人数
9月19日	和田小学校（和田祭り）	子供約20名+保護者数名
9月25日	福井えきまえ KOOKAN （秋の収穫祭）	子供19名+保護者多数
9月26日	福井えきまえ KOOKAN （秋の収穫祭）	子供16名+保護者多数
10月9日	湊公民館	子供8名+保護者数名
10月16日	順化公民館	子供6名+保護者数名
10月23日	日之出公民館	子供8名+保護者数名
10月24日	旭公民館	子供10名+保護者数名

ものを木工ボンドで貼り付けていく。貼り付ける物の例として布、電子・電気機器部品、機械部品、発泡スチロールなどを提示したが、これ以外に自由に持ち込み可としたところ、落ち葉、どんぐり、貝殻などを持ち込む子どもが見受けられた。

### 3-5. 丸太アート制作手順

ワークショップで制作したもうひとつの丸太アートの制作手順は、まず丸太側面に白で様々な形状を線で描きつつ、それらを線で繋いでいく。この時、特に直線・曲線などは指定せず、自由に描かせた。次に、白線で囲った様々な形の面を自由な色で塗り分けていく。基本的にハートや星型、キャラクターなどの意図的な形状を描かないように勧めたが特に強制はしなかった。また、一部板人形と同様に発泡スチロールなどを貼り付ける例外もある。線を書く際の指導方法について、「陣取り競争だ」と言いながら指導者と交互に形状を書くほか、電車が好きな子どもに対しては保護者が機転を利かし、白線を線路に見立て「連結」させていく方法も取られた。

## 4. おわりに

### 4-1. ワークショップに関して

多くの子供たちと保護者の方々の参加があり、アート作品を作る喜びや楽しみに面白さを味わってもらえた。幼児など小さな子ども達は、まさに天才であると言い切っても好いのではないかと感じるほど、計画し、主催したわれわれの想像を超える形づくりや色使いを改めて教えられた。集中して制作に没頭する子供が、保護者の方に「帰ろう」と言われても筆を持って離れない様子や、座り込んで無言で作品を作っている様子は、一部の保護者にとっては初めて見る子どもの姿勢であり、ボランティアとしてサポートしてくれた学生たちにも大きな刺激となって様々な美術・デザインの教育的効果が得られた。

ワークショップの評価は各地区とも好評であった中、保護者の方から「福井でワークショップはよくあるが、小学生向けのものがほとんどで小学生以下の子供も参加できるこのような催しをまた実施してほしい」との意見が印象的だった。今後ワークショップなどを開催する場合は、幅広い年齢層の参加できる仕組み作りが必要であろう。大きなクレームはなかったが、アクリル絵の具が衣服に付着し汚れてしまった子供や保護者の方が一部いらした。汚れてもいい服装での参加を呼び掛けていたが、もっと服装に対する注意を徹底すべきであった。また、準備段階ではグラインダーによる丸太磨きが大変な作業であるほか、丸太



図 1. 丸太アート制作風景



図 2. グループワーク制作風景

と板人形の各会場への搬入搬出が、想像以上の力仕事であったため、学生の協力がなければ成り立つことはなかった。

#### 4-2. 西武福井店でのイベントについて

イベントには、おもちゃ作家の野出正和氏に来福していただいた。野出氏のおもちゃ作品の展示とそのおもちゃ遊びは、子供だけでなく大人も楽しめた。野出氏自らのワークショップは、古新聞と割りばしとタコ糸でのおもちゃ作りである。おもちゃの名称は、新聞の球をくるくる回すことから「SHIN-KURU」と称し、「作る・遊ぶ」の面白さ、楽しさに喜びを提供してくれた(図3)。

イベント会場とその近辺には丸太アートと板人形を集合させ、賑わいを作り出せた。各地でのワークショップ参加者が、何人も来られ子供の作品を探したり、ほかの人の作品を鑑賞しつつ、「SHIN-KURU」にも参加され喜んでおられた。

福井県総合グリーンセンターから木を使った本事業に賛同していただき、前述の丸太の手配だけでなく、木のボールや木材チップを使った木の砂場、無垢の木の積み木、などの展示も行っていたいただき、特に3歳以下の乳幼児には講評であった(図4)。



図3. イベントでのワークショップ(写真奥)と展示風景(写真手前)



図4. 木の積み木で遊ぶ子供たち

#### 4-3. 謝辞

マメ独楽を見せることでサービスを受けられるほか、ワークショップスペースを提供していただいた西武百貨店、アクリル絵の具や筆を無償で提供していただいたホルベイン社、板人形の素材を格安で提供していただいた福井林産組合と窓口になっていただいた高倉木材、格安の丸太を手配していただくほか、木の砂場や積み木を出していただいた福井県総合グリーンセンター、これらの企業、団体の方々によって本事業は無事終えることができ、心から御礼を申し上げる。また、井ザワ画房には協賛していただきながら画材の依頼ができず、御礼を申し上げるとともにお詫びしたい。

#### 参考文献

- 1) 和久洋三：遊びの創造共育法 6 色面の遊びと造形、玉川大学出版部、2006
- 2) 田中一幸・山中晴夫：手作り木工大図鑑、講談社、2009

(平成23年3月31日受理)